

当会会員の（株）ダイナックス（千歳市）が、
平成30年5月8日(火)付の、日刊工業新聞に紹介されました。

狙いは新興国／ダイナックス AT用クラッチ板、ハンガリーで好調

ツイート シェア 0 LINEで送る

(2018/5/8 05:00)



ハンガリーの拠点

ダイナックス（北海道千歳市、秋田幸治社長、0123・24・3247）は、海外拠点を生かした生産体制の強化を進める。親会社のエクセディと連携し、需要が好調なハンガリーなどで設備投資を検討するほか、電気自動車（EV）関連製品の開発にも取り組む。ライセンス生産を含めたダイナックス製品の売上高は、2018年3月期に約810億円を見込む（3月時点）。21年3月期に1000億円を目指す。

ダイナックスは、自動変速機（AT）用クラッチ板を主力とし、国内外に年間約5億枚を出荷している。特に需要が好調なのがハンガリー。現地法人であるエクセディダイナックスヨーロッパ（タタバーニャ市）が工場を拡張するなど、AT用部品を16年2月から生産している。今後、欧州向けの受注の動向を見極めつつ、工場の拡張を想定する。秋田社長は「年内に具体的にどうするかを決めたい」としている。中国では、中国企業や日系、欧米企業の中国拠点からの引き合いも増えているといい、設備を強化して対応していく方向だ。「国内外でビジネスチャンスがある。慎重に見極めて投資をしながら、売り上げを増やしていきたい」（秋田社長）とする。

ダイナックスはEV関連製品の本格的な開発にも乗り出した。EV開発ベンチャーのFOMM（フォーム、川崎市幸区）に出資し、インホイールモーターの開発に取り組む。20年をめどに商品化を目指す。

既存製品の増産やEV関連製品への対応を含めて、「ヒト・モノ・カネをグループで有効活用していく」（同）としている。（山岸渉）